

○ 総 括

歩きたくなる、人とふれあう楽しさを体感するまち・みち環境づくりに向けたプロジェクトや関連事業に取り組んできました。

特に、ゴーヤの苗を市民・教育機関・公共施設に配布し、みどりのカーテンを普及するプロジェクトは、省エネや景観面での効果に加え、子どもたちの環境教育としても寄与しています。

ECO-ne t 生駒と市の経済振興課（現：商工観光課）の協働による自転車マップ作成や、環境と市民の健康づくりが連携したウォーキングマップの作成、本市の良さを再発見してもらうまち歩きイベントの開催等、多様な主体が連携して実施してきた取組を今後も継続・発展させる必要があります。

また、買い物や通院など、市民の活動の機会を確保するためには、これまで取組を進めてきたコミュニティバスも含め、各地域にあった公共交通の在り方を今後検討していくことが必要です。



生駒の良さを知ってもらう
「よこみち歩きのすすめ」



福祉センターの「みどりのカーテン」



コミュニティバス「たけまる号」



公共施設にある急速充電器と
公用電気自動車

エ エネルギー環境分野

○プロジェクト

取 組	取組概要	これまでの経過と実績
雨水利用ひろめ隊	雨水タンクの普及等により、雨水の効率的な活用と節水の啓発を推進する。	雨水利用を推進するための講演会や、イベントでの雨水タンクの展示を通じて啓発を展開した。 市内の幼稚園と保育園に雨水タンクを設置し、水の大切さを伝える出前授業を実施した。
太陽光発電応援団	太陽光発電に関心のある人や設置希望者に対して、情報提供・アドバイスを実施することで、太陽光発電の普及を図る。	太陽光発電普及のための講演会や、太陽光発電を設置している人と設置を希望する人の懇談会を開催した。 市民ファンドによる市民共同発電事業を展開する目的で、「一般社団法人市民エネルギー生駒」を設立した。
エネルギー情報基地	エネルギー相談所を設け、省エネ・創エネについて市民にアドバイスを実施することで、エネルギーを効率よく利用する人の増加につなげる。	環境フェスティバル等のイベントにて、臨時のエネルギー相談所を設け太陽光発電設置予定・設置済みの方の相談を受けた。 一般公募にて太陽光アドバイザーを募り育成し、市民による市民への啓発促進体制を整備した。

○関連事業

取 組	取組概要	これまでの経過と実績
太陽光発電設置補助事業	家庭等に太陽光発電システムを設置する人に対し、設置費用の一部を補助する。	平成 14（2002）年度から平成 29（2017）年度まで、補助件数は累計で 1,561 件となり、補助対象システムの出力累計は、6,714.4kW となった。
公共施設への太陽光発電システムの導入促進	市の施設へ太陽光発電システムを設置することで、温室効果ガスを排出しないクリーンエネルギーの導入促進を図る。	教育施設や生涯学習施設を中心に設置し、平成 29（2017）年度末まで、設置箇所は 19 になり、平成 29（2017）年度の年間発電量は 755MWh となった。
上水道施設での小水力発電	山崎浄水場小水力発電施設（出力規模：40kW）を、導入し、CO ₂ 削減を図る。	平成 23（2011）年度に小水力発電施設の導入を決定し、奈良県平群調整池からの高い受水圧で発電機を回して発電。水道事業として全国で初めて再生可能エネルギーの固定価格買取制度（FIT）を利用し、発電した電力の全量をいこま市民パワー株式会社に販売している。平成 29（2017）年度の年間発電量は、357MWh となった。

○ 総 括

公共施設へ太陽光発電や小水力発電設備を積極的に導入し、家庭等に太陽光発電システムを設置する者を増やす取組を展開したことにより、市域での再生可能エネルギーによる発電量は着実に増加しています。

創エネルギーの推進に加え、省エネルギーに関する各種啓発も市民・事業者と連携を図りながら実施してきました。

こうした協働による取組が高く評価され、平成 26（2014）年には、低炭素社会の実現に向け、高い目標を掲げて先駆的な取組にチャレンジする都市である「環境モデル都市」に、大都市近郊型の住宅都市として全国で初めて選定されました。

今後も、環境モデル都市としての取組をさらに推進し、環境を切り口に、経済・社会の課題も同時に解決を図る施策を展開していきます。



幼稚園・保育園にある雨水タンク



太陽熱を利用したソーラークッカーで
ポップコーンを調理



市民共同発電所と
(一社)市民エネルギー生駒のメンバー



山崎浄水場の小水力発電施設

オ 共通分野

○プロジェクト

取 組	取組概要	これまでの経過と実績
生駒環境市民講座 (ECO-n e t 講座)	環境のことを知り、主体的に実践する人材の育成を図るため、市民を対象とした養成講座を開催する。	一般市民向け講座として初開催となった平成 23 (2011) 年度は、無作為抽出した市民 1,000 名にダイレクトメールを送付し、受講者を募った。自然環境、生活環境、まち・みち環境、エネルギー環境の全てに関連することを伝える場として、毎年継続して開催した。
環境フェスティバル	環境について楽しみながら学べる場を提供することで、環境に关心を持つ市民を増やす。	会場の規模拡大や企画の見直し・追加を行いながら毎年開催しており、5,000 人程度が来場するイベントに成長した。

○関連事業

取 組	取組概要	これまでの経過と実績
竜田川 クリーンキャンペーン	ごみの投棄や生活排水などによる水質汚濁が進んだ竜田川のクリーンキャンペーンを実施し、水質浄化・河川美化への意識を高める。	平成 8 (1996) 年度から毎年、奈良県や竜田川流域の関係地域の自治会等と協力・連携し、実施している。参加者数は、流域の 13 自治会、7 団体、9 事業者等の合計約 1,000 人にのぼる。
環境学習プログラム 「エコキッズいこま」	環境活動に取り組んでいる団体を講師に招き、クイズやゲームなどの体験活動を取り入れた学習プログラム。	平成 26 (2014) 年度から市内小学校の主に 4 年生を対象に実施。平成 27 (2015) 年度からは市内の全小学校 (12 校) で実施している。
エコスクールへの応募 (グリーンフラッグの取得)	世界で取り組まれている学校向けの環境教育プログラム「エコスクール」の取得に取り組む。	小学校では生駒台小学校と生駒南第二小学校の 2 校、中学校では鹿ノ台中学校が登録している。平成 29 (2017) 年度現在で、すぐれた取組を実施している学校に授与されるグリーンフラッグを 3 校ともが取得している。取得期限を迎えた生駒台小学校と鹿ノ台中学校では、その後の児童・生徒の取組も認められ、グリーンフラッグの取得を更新している。

○ 総 括

各分野でのプロジェクトのほか、いずれの分野にも関係が深い生駒環境市民講座（ECO-net講座）や環境フェスティバルなどは、分野を超えて全体で取り組むプロジェクトとして実施しました。

市民向け講座や体験型学習に加え、幅広い世代が環境について楽しみながら学ぶことができる場を継続して設けたことで、参加者数の増加など、一定の成果は見られますが、プロジェクトについての市民認知度は高いとは言えません。今後は、より幅広い市民層に情報が届く工夫が必要です。

学校教育における環境学習については、外部団体の力も活かしながら事業を実施してきました。環境について児童・生徒が考え、学校と地域が協力して取り組んでいる証であるグリーンフラッグを市内の複数校が取得していることや、竜田川クリーンキャンペーンに多数の地域団体や事業者が参加していることからも、環境啓発の効果が、地域に浸透してきていることが窺えます。

今後も、より多様な主体が協力・連携できる体制を構築しながら取組を進めていきます。



市民が先生役となるECO-net講座



毎年多くの人が訪れる環境フェスティバル



多くの協力者と共に実施する
竜田川クリーンキャンペーン



グリーンフラッグ取得に取り組んだ
児童・生徒